

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701095		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム小春びより2号館		
所在地	青森県三戸郡新郷村大字戸来字金ヶ沢坂ノ下9		
自己評価作成日	令和2年8月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年9月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームが地域の一員であることをアピールするために、地域の行事やイベントへの参加を計画し、利用者、職員とともに継続し参加してきたが、今年度は新型コロナウイルスによる感染予防のため行事等が中止となり、交流の機会が減っている状況である。しかしながら、家族との関係継続や知人等の繋がりが途絶えないように、感染予防対策を講じて面会する機会を設けるようにしている。また、外での行事に出かけられないため、施設内で楽しめるような行事を毎月工夫して行っている。利用者がその人らしく、ありのままに安心して生活できるよう、訪問看護による健康管理と、これまでの生活や習慣、利用者の能力等を見極めて、役割や楽しみを提供し、日常生活において生きがいを持って生活できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしくありのままに」利用者の個性や習慣、思いを受け止め、「どのように過ごしたいのか」を確かめながら利用者の生活を支援している。地域の行事に積極的に参加しており、年1回、施設開放デーを設けて地域の方々を招く等、地域との交流をしている。避難訓練では、通常の訓練のほかに、水害マニュアルに沿った高台避難訓練も実施している。各職員は「目標管理シート」で、自身の対応の振り返りを重ね、日々のケア実践に活かしている。コロナ禍では、3密等規制のある中でも、できるだけ身体を動かして楽しめるように、ミニ運動会やバーベキュー、豪華な食事の日等を行い、全職員で利用者の暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流を図り、家庭的な環境の中でその人らしくありのままに安心して生活できる第二のわが家」を理念に掲げている。毎朝唱和し、全職員で共有して、サービス提供に反映できるように努めている。	地域交流と地域貢献を大切にしている、独自の理念を掲げ、毎朝唱和したりホームの随所に掲示して共有している。各職員は、目標管理シートで接遇について振り返り、利用者がその人らしく安心して生活できるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は新型コロナウイルスの影響で自粛しているが、昨年度は、地域の行事に見学や参加するほか、職員がボランティアで花植えや子供会の資源ゴミ回収に参加していた。また、年1回、施設開放デイを設けて、地域住民の参加を促している。	保育園や小中学校の運動会、文化祭の見学ほか、地域の行事に積極的に参加している。その際、知人との再会も利用者の楽しみの一つになっている。また、施設開放デイを開催し、地域住民の参加を呼びかけ、歌や踊り、飲食等で楽しめるようにして、ホームへの理解と周知につなげている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村が主催する認知症サポーター講習会を受講する予定となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度の運営推進会議は、村の担当職員と相談して、書面で事業所の情報提供をし、委員会から意見を募る工夫をしている。	自治会長や民生委員、家族代表、村担当者に参加していただき開催している。会議では、ホームの現状や行事、研修内容、サービス評価への取り組み等について報告をして意見をもらっている。コロナ禍の現在は、書面を送付し、意見と感想の返信をまとめて会議録を作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に村の担当者が出席し、情報交換をしている。また、自己評価と外部評価の結果等についても報告している。	村の担当者が運営推進会議に参加し、新しい情報や地域の状況を共有して、不明点や迷ったときは相談したり、ホームの空き情報を伝えている。今回のコロナ禍では、感染情報や衛生対策等について連絡を密にして情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適性化委員会を定期的で開催して、身体拘束の内容や弊害について理解し、他職員も研修を年2回実施している。	身体拘束は行わない方針で、指針とマニュアルを作成している。年4回の適性化委員会と他2回の研修会を開催し、その内容や弊害について理解を深め、その都度習熟度テストで確かなものになっている。日中は施錠せず、出入りの自由を確保している。帰宅願望があれば見守りや付き添って思いを聞いたり、散歩して気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部署会議で定期的に勉強会を実施し、虐待防止法等について理解を深め、ホーム内で虐待が発生しないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	部署会議で定期的に勉強会をして、権利擁護について学んでいる。該当する利用者はいないが、必要な方には情報提供できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や重要事項説明書、料金等を資料に基づいて説明し、同意を得ている。また、料金等の改正時にはその都度説明し、書類で同意を得ている。退居時には家族に同意を得て、退居先に情報提供をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置するほか、重要事項説明書に苦情受付窓口を明示して、契約時に家族に説明している。また、苦情処理記録票を作成して再発防止に努めている。	面会時に家族に生活状況等を伝えて、気づいたことや要望等を聞くようにしている。また、推進会議やケア計画説明の際にも、意見と要望が出せるようにしている。毎月の便りで、利用者の健康状態や暮らしぶり等を伝えている。新型コロナウイルス感染予防のため、現在は窓越しの対応となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居前に、職員に情報を提供してもらい、ケア等について話し合っている。ホームの運営方針等については、部署会議で情報提供して、利用者のケアや業務等に関しては棟会議で話し合いをしている。職員の異動時は、利用者に挨拶をしている。	月1回の部署会議(合同)では、法人本部との連絡調整や勉強会、行事関連について話し合っている。各棟会議では、ケア検討や業務内容について職員の意見と要望を聞いている。事前に各職員がノートに話しあいたい事項を記入してもらい、短時間で有意義な会議となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法に基づいた就業規則となっている。年2回の健康診断の実施のほか、職員の人事考課、業績考課を年2回実施して、適切な給与となるように努めている。また、職員がやりがいを持てるように個人目標を設定して、達成できるように支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が外部の研修に参加できる環境ではないため、部署会議で勉強会を実施している。また、研修を受ける場合は勤務調整をして、業務に支障がないよう配慮している。研修終了後は、報告書の作成と伝達講習を行い、全職員に周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防のため自粛しているが、グループ内の部会や勉強会があり、意見交換や情報交換を行い、各ホームの取り組みを通じてサービスの質の向上になるように努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望があった際は、利用者や家族と面談して身体状況やニーズを把握し、思いを聞きながら、話しやすい環境を作るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の相談があった場合は、家族とも面談して話を聞くようにしている。また、家族の思いや希望等を話しやすい環境を作り、信頼関係が築けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族のニーズがホームのサービスで適切であるかを見極めている。対応できないときには丁寧に説明し、他の関連事業所の説明や地域包括支援センターに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の趣味や好きな物を把握して、職員と一緒に楽しめるように努めている。また、作業をしたり教えてもらった利用者には、「ありがとう」とお礼を伝えて、共に支えあっていることを認識できるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	重度化及び看取り介護に関する指針を入居時に説明して文書で同意を得ている。重度化や看取りとなった場合は、かかりつけ医や利用者、家族と随時相談や話しあいをしている。できる限りホームで過ごしてもらうこととしているが、状態の変化に応じて入院することになっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者や家族との会話から、馴染みの人や場所等を把握して、希望があれば応えている。家族との関係が途切れないように支援しているほか、知人の面会等もコロナウイルス感染予防を実施したうえでやっている。	お盆や年末は親戚や知人の来訪があり、ゆっくりしてもらっている。電話を取り次いだり、墓参りや買い物等、家族と連絡を取りながら、これまでの交流が継続できるように支援している。現在はコロナ禍のため面会や外出は制限している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルになりそうな時には職員が間に入りフォローしている。また、居室で過ごす事が多い利用者にはホールに来るよう促したり、随時居室を訪室して、声掛けを多くするように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に、家族に対していつでも相談に応じることを説明している。また、家族に了解を得て、退居先に利用者の状態や生活状況、ケアの方法等を文書で提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントや生活の様子、会話等から利用者の思いや意向を把握するように努めている。また、意向等の把握が難しい場合は、利用者の表情や動作から意思を汲み取るように努めている。	利用者の個性や習慣、好みを尊重した声掛けを大切にしている。一人ひとりの表情や動作から、思いを把握して、「どのように過ごしたいのか」を確かめながら、職員間で共有し、利用者の思いに寄り添えるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活の様子とサービスに至る経過を把握するよう努めている。また、家族等から生活習慣等の情報を収集するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの過ごし方や生活リズムを把握している。また、できることや理解していることを把握して、利用者の能力を発揮できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向と、利用者の言動等から思いを汲み取り、棟会議で職員の気づきや意見を基に話し合い、介護計画に反映させて定期的に見直している。また、利用者の状態に変化があるときは、その都度介護計画の見直しをしている。	利用者の生活歴や、家族と医療機関から得た情報を基に、全職員で話し合って計画を作成している。解決すべき課題の欄には、利用者の言葉を含めた個別的な問題提起をしていて、その具体策が掲載された介護計画が作成されている。毎月モニタリングして計画につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は介護計画に沿った記録となっていて、実践や結果を個別に記録している。また、職員の工夫や気づき等を申し送りノートへ記録し、職員間で共有して、見直し等に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療の連携体制を整えて、利用者が健康で過ごすことができ、また、家族も安心して生活ができるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や町会長、消防署、警察等と必要な時に連携ができるように働きかけている。また、外部のケアマネジャーや地域包括支援センターと連携を図り、必要なときには活用できる関係を構築している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や既往歴を把握して、利用者や家族の希望する医療機関を受診できるようにしている。また、家族による受診対応の場合は医療機関に連絡票を用意してもらい、利用者の身体状況をお知らせして、受診結果も情報共有できるようにしている。	利用者や家族が希望の医療機関を受診できるように支援している。職員が受診支援しているが、村外の専門医の受診には家族が受診対応している。受診結果は共有されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、週1回看護師が来所し、利用者の健康状態を把握して職員と情報共有している。また、状態に変化がある場合は、職員が報告相談して助言やアドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、医療連携室や担当看護師と退院等について情報交換を行う体制ができています。また、家族とも連携して、安心して入退院ができるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化および看取り介護に関する指針を入居時に説明して、文書で同意を得ている。また、重度化や看取りとなった場合は、かかりつけ医や利用者、家族と随時相談しながら、できる限りホームで過ごしてもらっている。状態の変化に応じて入院することもある。	「重度化及び看取り介護に関する指針」を明示し、入居時に説明している。往診可能な医療機関がないため、ホームでの看取り介護の実施はできる限り対応している。難しい場合は、家族や医療機関と連絡を取りながら、安心して最期を迎えられるように、入院の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って、全職員が対応できるようにしている。また、応急手当や救急救命訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間と日中を想定した避難訓練を実施している。また、避難経路や消火器等の設備点検をしているほか、非常食や飲料水、毛布等を用意して、定期的に点検している。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っている。今年は消防団の参加は得られなかった。ホーム裏に五戸川があるため、水害と土砂災害を想定して、全員の高台避難訓練を実施している。災害に備えて、食料や水、衛生用品、毛布、発電機等をホーム内に用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんには「さん」付けで呼び掛けている。利用者の言動を否定したり、拒否するような声掛けをしないように対応している。トイレや入浴の介助時は、羞恥心に配慮しながら介助している。入居時に、個人情報取り扱いについて文書で説明して同意を得ている。	その人らしさを尊重して、利用者のペースに合わせている。言動を否定しないで、よく話を聞くようにして「良いのか、いやなのか」を把握して、「どのように過ごしたいのか」を確かめている。声掛けや対応についての勉強会を重ねて、「目標管理シート」で自己評価をしてケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの能力に応じて、意思決定ができるような声掛けやセッティングをしている。また、意思決定ができない利用者には表情や反応を読み取って対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の希望や心身の状態に合わせて支援している。また、利用者の意向やペースに合わせることができない場合は、説明して了解を得ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みや、時、場所、場面に合わせて、おしゃれができるように支援している。衣類の乱れがある場合は、さりげなく声掛けして直している。馴染みの理容室、美容室はないが、希望があるときは、家族と相談して柔軟に対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握して、食べやすい調理や盛り付け、代替品を用意する等の対応をしている。また、ホームの畑で採れた野菜や季節の食材を使用するほか、職員も一緒に会話しながら食事をしている。	法人の管理栄養士が献立を作成している。嚥下状態に合わせて、刻み食やトロミ食等にする等、食べやすい食事を提供している。行事食では、利用者の希望を取り入れている。ゆったりとそれぞれのペースで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分量や食事量を記録し、利用者一人ひとりを把握している。同グループの管理栄養士が献立を立てており、利用者の好みや嗜好に合わせた食材を使用しているほか、栄養摂取の状況等についても相談できる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの必要性を理解し、毎食後利用者の力量に合わせて口腔ケアや、義歯洗浄ができるように声掛けや介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、把握している。紙おむつやパットを使用している利用者もトイレ誘導して、トイレで排泄できるように支援している。排泄介助では羞恥心やプライバシーに配慮したケアに努めている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりのタイミングでの事前誘導をして日中はトイレ排泄を大切にしている。利用者の状況に合わせてオムツ使用を見直している。介助の際は静かにさりげなく声掛けしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解している。便秘の原因を探り、食事量や水分量、運動量を検討し、一人ひとりに合わせた対応をしている。また、下剤を使用している場合は医師や訪問看護師に相談し、利用者一人ひとりに合わせた使用量と頻度になっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	利用者の入浴習慣や好みを把握し、利用者の意向を取り入れている。入浴を好まない利用者には、無理強いせず担当職員や入浴日を変更する等の工夫をしている。また、できる部分を洗身してもらう等、利用者の能力にあったケアを心掛けている。	週2回のペースで入浴している。一番風呂やお湯の温度等、利用者の希望を聞きながら入浴の支援をしている。1対1で対応して、利用者の思いを聞きながら、安全で楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムを把握し、体調に合わせて休息出来るように支援している。また、睡眠状態や日中の活動量を観察し、申し送り等で報告している。利用者が安心して眠れるような声掛けや対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が利用者の薬の内容を把握できるように処方箋をカルテに綴じている。内服薬に変更があるときは、申し送りノートに全職員への周知と記録を残し、家族にも報告している。また、飲み忘れや誤薬がないようにルールを決めて実践している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や習慣、希望を把握して、利用者の能力に応じた役割や楽しい時間を過ごせるように支援をしている。また、利用者の嗜好を把握し、他の利用者にも配慮したうえで取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は新型コロナウイルス感染症対策により、外出を控えているが、令和元年度は月1回程度、外出の行事計画をして実践していた。天気の良い日は散歩したり、畑に出て作業を見たり収穫する等して気分転換ができるように支援している。	天気の良い日は、散歩や敷地内の畑の作業や収穫等で外に出る機会を作っている。花見やお祭り、紅葉狩り等の季節行事や、ドライブ、外食等、利用者の気分転換と楽しみにつながる機会を設けている。コロナ禍では、ミニ運動会やバーベキュー、食事の豪華な日等、ホーム内のできることを工夫して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族の希望があれば、利用者の能力に応じて少額を自己管理してもらっている。普段お金を使う機会がない利用者には、買い物行事で支払いの機会を設けている。ホームでは預り金を3万円以内とし、用途を記録し領収書をつけて家族に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を希望するときは、利用者に合わせて支援を行っている。また、手紙を読めない利用者には了解を得て代読し、内容を知らせている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除や整理整頓を常に行うほか、季節に合った装飾を心がけている。また、ソファや畳を配置して、家庭的で居心地の良い空間となるように努めている。職員の立てる音やテレビの音量、室内の明るさ、空調は適切であり、利用者が快適に過ごせる環境となっている。	ソファや畳の上、食卓で手芸や塗り絵等、思い思いに過ごしている。日中はほとんどホールで過ごされている。季節の花や手作り作品を飾り、季節感を大切にしている。物音や声、明るさ、温湿度に配慮して、居心地よく過ごせるように支援している。コロナ禍のため特に換気と消毒に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールではソファを畳の上に置いており、座ったり横になってくつろぐことができる。廊下には椅子を置き、利用者同士で会話したり休めるように配置している。また、利用者同士の関係に配慮して位置を変える等の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた物を持って来てもらうように伝えており、茶わん等の小さい物の持ち込みがある。また、居室は使いやすいように利用者と相談して配置の変更や家族との写真を貼る等して、利用者が居心地よく過ごしてもらえるように工夫している。	使い慣れたものを持って来てもらえるように働きかけている。テレビや冷蔵庫、写真、位牌等が置かれている。利用者の状態にあわせて、その人らしい居室になるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂等をわかりやすく表示し、場所を間違えないように工夫している。また、利用者の日常の動線を観察して、職員同士で情報交換しながら、利用者が自立した生活を送れるような環境づくりに努めている。		